こんにちは婦人会「さくら」です

４月になって、真冬のような気温と花散らしの雨に見舞われて、桜の見頃があっという間に過ぎ去ってしまいました。今は自治会館入口の八重桜が、ピンク色のボンボンのように可愛らしく残り少ない春を惜しむかのように咲いています。風が吹くたびハラハラと舞い散る桜吹雪も風情がありいいものですね。

～婦人会・暮らしのエッセンス～

毎号、編集人の頭を悩ませる四季それぞれの季語があります。今月は、美しい言葉であらわした「春』の季語の一部をご紹介します。

「花冷え」桜の花の咲く頃は、一日一日暖かくなっていきながら不意にまた冬に戻ったような寒さが訪れます。そんな季節を表した季語です。

「花影（かえい）」詩歌などの中で、ただ「花」と書かれる場合は「桜の花」を指しています。花影は「桜の花の影」のこと。満開の桜の花の落とす陰影に華やかさと寂しさの両方を表現した日本人らしい余韻のある言葉だそうです。

「蛙（かわず）の目借時（めかりどき）」春は無性に眠くなる季節、春に眠気をもよおす理由は、蛙が人の目を借りるためだという俗説が古くからありここから出た季語のようです。冬眠から覚めた蛙にとって春は恋の季節。沢山のライバルに負けず相手を見つけなくてはなりませんが、蛙の目は左右離れているため前が見にくい。

そこで人間の目を借りていくのだそうです（インターネット引用）

季節の変わり目で体調を崩しやすい時期ですが、くれぐれもご自愛ください。

婦人会さくら
平成２７年４月２３日
第１５９号